

～ 3月23日（土）三陸鉄道リアス線誕生！ ～

三陸鉄道の新たな出発を祝して

「三陸鉄道カラー」の列車を運行します

叡山電鉄株式会社（本社：京都市左京区、社長：塩山等）では、2019年3月31日（日）から岩手県を走る三陸鉄道株式会社（本社：岩手県宮古市、社長：中村一郎）のカラーリングを施した車両を期間限定で運行します。

三陸鉄道と当社の繋がりは、2009年の「第5回えいでんまつり」で全国の鉄道をPRするコーナー「広がれ！鉄道ネットワーク」にご協力いただいた縁から始まり、2013年より開催しているイベント「悠久の風～南部風鈴によせて～」におけるフォトコンテストなどを通じて連携を深めてまいりました。また、昨年の台風21号で当社が被害を受けた際には、三陸鉄道から社長が激励にお越しくださるなど、温かいエールを頂戴しております。

今回は、昨年いただいたエールへのお礼の意味と、三陸鉄道が震災の被害を乗り越え、新たな路線として出発するにあたり、少しでもお役に立てばという思いを込めて、当社の車両1両を「三陸鉄道カラー」に塗装してお祝いし、遠く離れた京都の地でのPRに貢献できればと考えております。

詳細は、別紙のとおりです。



今回塗装する「三陸鉄道カラー」のイメージとなる三陸鉄道36-700形車両

以上



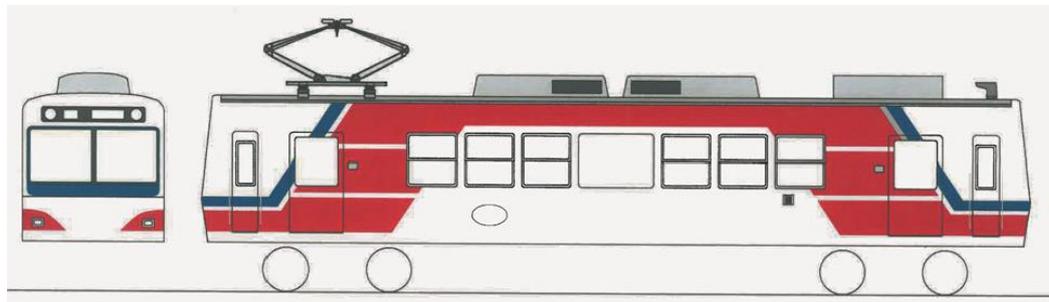
〔別紙〕

「三陸鉄道カラー」車両の運行

運行期間 2019年3月31日（日）～2020年3月（予定）

車両番号 712号車

イメージ



※運転時間は日によって異なります。また、車両点検やその他の理由により運休や運行期間を変更することがありますのであらかじめご了承ください。

（参考）

三陸鉄道株式会社

三陸鉄道は、日本初の第三セクター（公企業と私企業が共同で出資した企業）の鉄道で、岩手県の北リアス線（久慈駅～宮古駅間、71.0 km）、南リアス線（釜石駅～盛駅間、36.6 km）を運行しています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、運行できない区間が多数発生するなど甚大な被害を受けましたが、2014年4月6日に全線で運行を再開しています。

その後、北リアス線と南リアス線の間であって、同じく東日本大震災の被害で不通となっているJR山田線の宮古駅～釜石駅間が三陸鉄道に移管されることになり、この度、2019年3月23日（土）に久慈駅～盛駅間の運行が一体となった「三陸鉄道リアス線」が誕生。総営業距離は163 kmとなり、第三セクター鉄道としては日本一の営業距離となります。

悠久の風～南部風鈴によせて～

叡山電車沿線の鞍馬と岩手県が源義経ゆかりの地であることから、源義経が生きた地域の風を感じていただこうと、2013年より毎年6月から9月の間に開催しているもので、岩手県名産の南部風鈴を鞍馬駅に飾り付け、透明感のある音色で京都の避暑地・鞍馬へ訪れた方へ涼しさと癒しをお届けしています。

その催しの中の「悠久の風フォトコンテスト」では、「三陸鉄道と沿線の四季に関する写真」を作品のテーマの一つにし、優秀作品は叡山電車の車内のほか、三陸鉄道の駅にも展示しています。

